

No.2003

3月27日例会 プログラム 「識字率向上月間に因んで」 谷口 康則社会奉仕委員長

4月3日例会 プログラム 「検視について」 渡邊 正俊君

3月27日のメニュー ・豚肉とエリンギのマリネ ・タルタルチキンの南蛮 ・お刺身 ・ご飯、お味噌汁、お漬物 ・フルーツ ・コーヒー

前回(3月13日)例会記録

出席報告	会員総数	32名	出席者数	27名	欠席者数	5名	出席率	84.38%	前回補正率	81.25%
	前回補正者	三宅(照)君 石川君								
	欠席者	林君 井上君 仲田君 安江君 山田(次)君								

会長挨拶

毎週のあいさつとして、現在起こっている経済危機について、日経新聞から「これは!」と思う事をお話ししていますが、自分自身時たま、あまりの変動に息が詰まりそうになる事があります。今日の日経新聞の「春秋」の欄に、プロ将棋士のお話があります。その中に「広田弘毅」氏が左遷された時に詠んだという句で「かざぐるま 風が吹くまで 昼寝かな」というのがありました。何か、「春秋」に書かれた意味とは少しかけ離れるかもしれませんが、自分なりに一息つけそうな気がいたしました。一息つきながら自分なりにこれからも頑張っていきたいと思います。

会長報告

- ・お一人の方が新入会員候補者として先週の理事会で承認されましたので、新入会員候補者の方を発表させていただきます。玉野市日比で社会保険労務士、行政書士事務所を経営されております義若智康様です。異議のある方は1週間以内に文書にて会長宛に申し出てください。宜しくお願い致します。

幹事報告

- ・葛尾ガバナリー・エレクト事務所より東川次期会長宛にPETS参加のお礼状が届いております。
- ・3月11日(水)に3月度の県南18RC幹事会にホストクラブとして槌田副幹事と共に出席してまいりました。
- ・他クラブの週報・例会変更通知は回覧させていただきます。

委員会報告

- ・石川君 - 突然ですが、この度「近畿玉野会」を立ち上げようというお話を頂きまして、今回そのご案内を配布させて頂いております。ご覧になられた上、ご賛同、ご出席、ご紹介の程宜しくお願い致します。

スマイル・ボックス

- ・谷口君 - 先日、瀬戸大橋CC月例にて優勝致しました。
- ・岡君 - 娘が高校を卒業しました。
- ・島田君 - 岡さん、先日は子供が大変お世話になりました。 前回欠席。
- ・槌田君 - 今日、卓話をします。宜しくお願いします。
- ・石川君 - 「近畿玉野会」のお話をさせていただきます。 高橋(征)様、週報ありがとうございました。 前回欠席。
- ・渡邊君 - 100%出席ありがとうございました。

PETS報告 東川 副会長

この3月の7、8日に会長・会長エレクト研修セミナー「PETS」に参加して参りました。次年度のジョン・ケニーRI会長エレクトのメッセージを受けまして、次年度の葛尾ガバナリー・エレクトは、基本的には鳥居ガバナリーの基本方針の継承、会員純増と環境問題の取り組みを継続する、と同時に2007年~2010年のロータリーが挙げております長期計画を実行に移す最後の年度になるので、水・環境問題以外に今世界で問題になっておりま

す、保健衛生問題、飢餓救済、識字率向上という国際的な問題への取り組みも強調されております。そこで、地区目標がいくつか挙げられておりますが、クラブに直接関係してくるものが、各クラブ会員増強1名以上。ロータリー財団関係では、年次寄付が1名あたり140ドルとベネファクター1名を出して頂きたいというのが目標です。米山奨学会関係では、普通寄付が一人あたり年5000円と特別寄付一人あたり10,000円、これが目標でございます。次年度の地区テーマが、「ロータリーは地域とともに」というふうに分けられております。先程の国際問題も大事ですが、まずは地域での水環境問題を含めての奉仕活動、すなわち、「まずは地域での奉仕活動が優先される」という事が、葛尾ガバナー・エレクトのお考えです。そこで、地区協議会が4月に開催されますので、そこでの勉強を通して、次年度のクラブ活動を考えたいと思いますので、その時はご協力の程宜しくお願い致します。

プログラム 「児島湾干拓のお話」 榎田 正則君

今年は児島湖堤防が出来て3月29日で50周年です。藤田の干拓が終わり105年になります。児島湾の干拓の計画は明治12年に始まり、計画によると第1区から第8区まで計画され、実際には第1区が灘崎町・高崎、第2区が藤田地区、第3区・第5区は岡山市浦安地区で、第6区は藤田地区、第7区は灘崎町7区地区です。第4区と第8区の干拓は計画のみで実行はされませんでした。干拓面積は第1～7区までの絵面積で5400ha、事業をスタートして昭和34年に完成しました。最初の着工より約40年かかりました。

最初の計画は、日本政府が明治14年にオランダ人技師ムルデルに調査を依頼し開始、しかしその後、当時の日本政府、東本願寺、鹿島も手を引き、最終的には藤田組によって引き受けられました。では、藤田組の藤田伝三郎とはどんな人物であったかということ、出生は山口県萩市で、1841年に造り酒屋の4男として生まれました。近所には高杉晋作がいて、騎兵隊がいましたが、直接、高杉晋作に師事してはおりませんでした。裏から資金の援助をしていたといわれております。幕末の頃ですので、表立っての援助をすると、命が狙われる心配をしたのだともいわれております。資金的には叔父の経営していた酒屋の後を継いで、お金儲けをして高杉晋作に援助していたといわれております。その後は、大阪に出て1代で巨額の富を得る事になります。藤田伝三郎が手掛けた会社は、関西電力、琵琶湖汽船、南海電鉄、藤田観光、リーガル、大阪毎日新聞などですが、大阪商工会議所2代目会頭もしました。一番有名なのが、二セ札事件がありました。これは、明治12年に、当時の政治家・井上かおると組んで二セ札を作ったという事でしたが、後で無罪になります。今週のテレビでお宝の鑑定をする番組がありましたが、その中で、「第14代・徳川家茂のお宝の花瓶」がありましたが、もし本物なら10億円で日本に1つしかないとの事でした。それが、藤田伝三郎が集めた古美術を展示している、大阪の藤田美術館にあるとの事でした。藤田伝三郎の話はまだありますが、ここで、干拓に戻って、ビデオをご覧下さい。

干拓に関するビデオを鑑賞

ビデオは50分ありますが、時間の関係でストップさせていただきます。

最後に、現在、藤田地区の公民館活動として語りべをしておりますが、小学校で子供に話をしても藤田の土地が昔、海の底にあり先人達が苦労して現在の生活環境にしてきた事も知りません。でも少しずつでも話しをして、自分達の生活の場に少しでも関心を持って頂ければと思い、語りべを続けています。

本日はありがとうございました。